

## 1 人一台端末の利活用に係る計画

伊佐市教育委員会

### 1 GIGAスクール構想第1期の総括

#### (1) めざす学びの姿

これまでの学習指導要領の理念である主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が継続的に図られ、そこにICTを入れ込むことによりさらに主体的・対話的で深い学びの授業が展開されている姿。

シンキングツールやAIドリルを使用した個別最適な学びや、個の考えを授業支援アプリ等で共有したりオンラインによる遠隔授業での考えの交流などによる共同的な学びが展開されることにより、深い学びへ到達している姿。

#### (2) これまでの総括と成果と課題、

##### ア 端末整備と通信ネットワーク整備

- 令和3年児童生徒端末1689台整備、通信ネットワーク整備完了

##### イ 学びの実践のための取組等

- 令和3～5年度は以下のキーワードを柱に推進

- ・令和3年度「慣れる」

- ・令和4年度「使える」

端末家庭持ち帰り 9月全校開始

市教育講演会 情報モラル、プログラミングについての講演会

ICT機器活用研修会

5月 デジタル教科書、授業支援アプリ（ロイロノート）

7月 授業支援アプリ（ロイロノート）

- ・令和5年度「溶け込ませる」

端末家庭持ち帰り

市教育講演会 パネルディスカッション

ICT機器活用研修会

先進地視察 熊本県山江村立山田小学校

- 令和6年度以降は目標値を定めた上で、質の向上を図っている。

ICT操作研修会

ICT活用（自己調整学習）について研修会（市教育講演会）

教育版マイクラフト操作研修会、実践研修会

先進地視察

##### ウ 成果と課題

- 各学校でのICTの活用が広がり、授業展開に応じた効果的な使い方ができるようになってきている。市主催の研修会では、先進的にICT活用を行って授業をしている熊本県の山江村立山田小学校と山江中学校の視察を行った。

△ 教師により活用状況が2極化している。よって、各学校での研修やスキルチェックに応じたICT支援員による研修を実施したり、市主催の研修会も改めて基礎的な部分に戻って操作研修会を行い、操作スキルの向上を図っている。

### 2 今後の利活用計画

#### (1) 情報活用能力の育成

- 各教科等の授業のみならず、様々な教育活動でICTを活用する場面を設定し、その積極的な活用を通して情報活用能力を育成できるようにする。

→研修会、研究公開等を通じた実践事例の共有

- いつ、どの学習活動の中で、どのような方法により、どのような情報活用能力を育成するのか等を整理し、各学校の情報教育の全体計画や各教科等の指導計画に明記して、全教職員の共通理解を図りつつ、教科等横断的な視点から意図的・計画的に情報活用能力を育成する。

- 情報活用能力の体系表（IE-School）情報活用能力体系表（県総教セ）の活用
- 民間企業や地域人材等の力も積極的に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成につながる取組を充実させる。
  - 全国的な研修会等の各学校への周知
  - 利活用数値目標
  - 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。」の質問に「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合

| 年度 | 割合と目標値 | 内 訳                                              |
|----|--------|--------------------------------------------------|
| R4 | 14.1%  | 小学校：25.3%（週3回以上…29.3%）<br>中学校：2.9%（週3回以上…6.6%）   |
| R5 | 27.9%  | 小学校：31.9%（週3回以上…45.8%）<br>中学校：23.8%（週3回以上…50.0%） |
| R6 | 58.2%  | 小学校：47.3%（週3回以上…29.0%）<br>中学校：69.1%（週3回以上…12.1%） |
| R7 | 80.0%  |                                                  |
| R8 | 100.0% |                                                  |

(2) 授業での効果的な活用

- ICTの授業での積極的な活用を促進し、日々の実践を通して、ICTを効果的に活用した授業づくりの充実が図られるようにする。
- 学校における活用状況や児童生徒の活用の様子等の積極的な把握に努め、教職員の研修機会の充実等、それぞれの学校や教職員の状況に応じたICTを効果的に活用した授業づくりに努める。
- 様々な機会、得られる情報等を有効に活用したり、お互いの実践や取組を共有したりすることを通して、ICTを効果的に活用した授業づくりに向けて、研鑽を深めるようにする。

(3) プログラミング教育の充実

- 学校における取組状況の把握
- 教育課程への位置付け
- 資料等を活用した教職員研修の実施

| 年度 | 情報モラル教育         | プログラミング教育                      |
|----|-----------------|--------------------------------|
| R5 | ○ 教育課程への確実な位置付け | ○ 令和4年度市教育講演会にてプログラミング教育について研修 |
| R6 | ○ 教育課程への確実な位置付け | ○ 市内9校に教育版マイクラフトを導入            |
| R7 | ○ 教育課程への確実な位置付け | ○ 市内16校に教育版マイクラフトを導入 ※発表会実施予定  |

(4) 教育版マイクラフトの導入について

ア 実施校

- 1年目（R6）…市内小・中学校9校（希望校）で実施
- 2年目（R7）…市内小・中学校16校で実施

イ 実施にあたって

各学校が実施しやすい学年、単元(教科等)で指導計画を作成し、実施する。  
単元を新設したり、既存の単元の表現部分を置き換えたりしてもよい。時数は、実践例（教育版マイクラフト操作研修会、Teams等）を参考にして決定する。

ウ 支援体制

- 教育版マイクラフト操作研修会資料に年間指導計画や実践発表資料あり。
- 今後、Teamsに先行実践を投稿して共有できるようにする予定。

- ICT支援員、伊佐市e-スポーツ協会の支援あり。TeamsのICT支援員との連絡チャンネルにて日時や内容を調整する。

エ 実施予定

|     | 職員                                          | 児童生徒               |
|-----|---------------------------------------------|--------------------|
| R 6 | 年間指導計画へ教育版マイクラフトを位置付ける。<br>※職員への操作研修等を実施する。 |                    |
| R 7 | ※必職員への操作研修等を実施する。                           | 総合的な学習の時間で探究活動を行う。 |
|     |                                             | 児童生徒に操作指導を行う。      |
|     |                                             | 探究したことをもとに創造する。    |
|     |                                             | 学校内で成果物の交流をする。     |
|     | 市内全小中学校合同発表会実施（希望校のみ発表）                     |                    |
| R 8 | 市内全小中学校合同発表会実施（全学校発表）※R7を生かした活動             |                    |

小中学校合同発表会（案）

日 時 令和8年2月 14:00～15:30

実施方法 オンライン ※Teams

参加校 全小中学校（教育版マイクラフトに関わった学年・学級）

発表校 R7は希望校のみの発表

R8は全小中学校の発表（広く参加者を募る）

発表方法 ①作成したワールドに児童生徒の代表者が入る。

②創造物の作成過程を説明しながら回る。

発表時間 各学校8分以内（発表数によって調整する）